

体の見方が変わる。 関わり方が広がる。

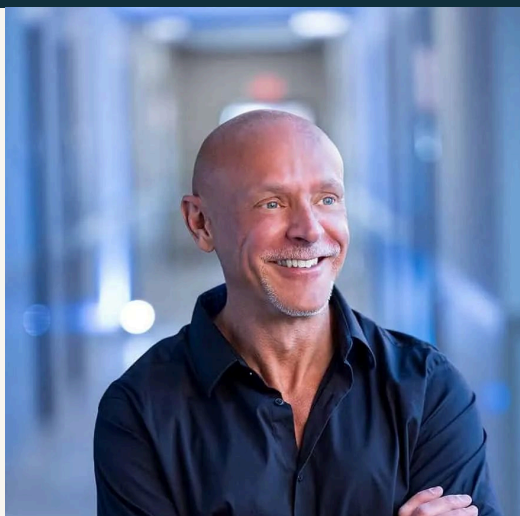
機能神経学の魅力と 世界の実践者

感覚と神経の視点から、人の可能性を考える。



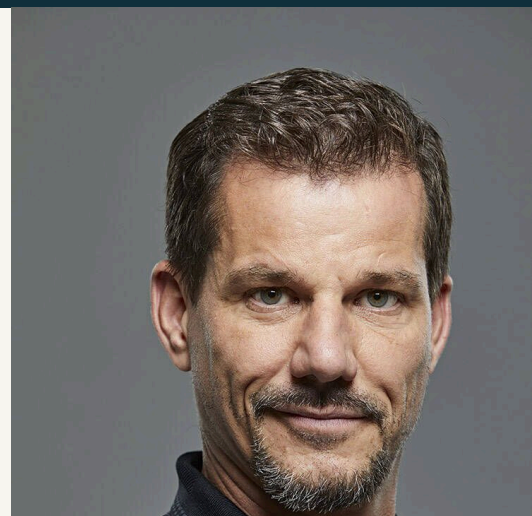
Robert Melillo

発達・学習



Eric Cobb

運動・トレーニング



Lars Lienhard

スポーツ・競技

「どこに働きかけると、
この人の可能性が広がるだろう」。

Ted Carrickの機能神経学を起点に、発達支援・運動・競技への応用をたどります。

02 キャリックの機能神経学

脳と体の連携に、目を向ける。

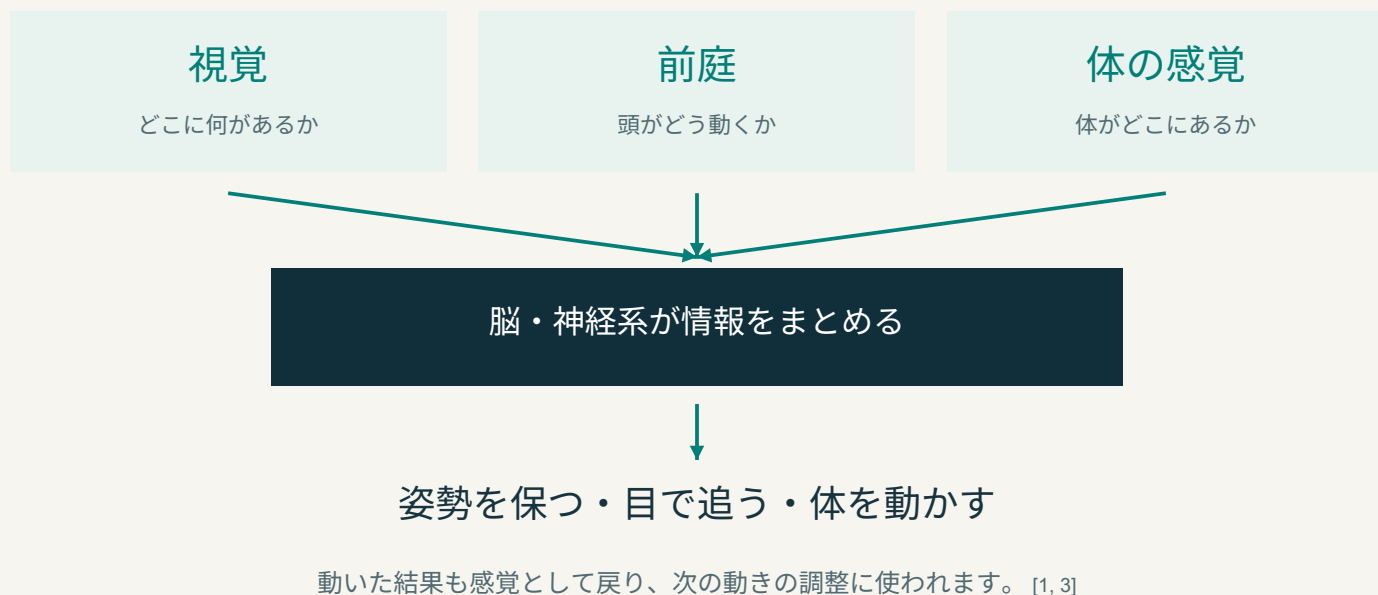
**Ted Carrick**

DC・PhD / Carrick Institute創設者

神経の働きを評価し、
その人に合う刺激や運動を選び、
変化を確かめていく。

Carrick氏が発展させてきた機能神経学は、感覚と運動への働きかけを、評価・介入・再評価につなげる考え方です。[1, 2]

私たちの動きは、さまざまな情報に支えられている



変化の土台になる「神経可塑性」

経験や練習に応じて、神経の働きやつながりが変化する性質です。機能神経学では、この性質を踏まえ、刺激や練習の内容・量を考えます。[3]

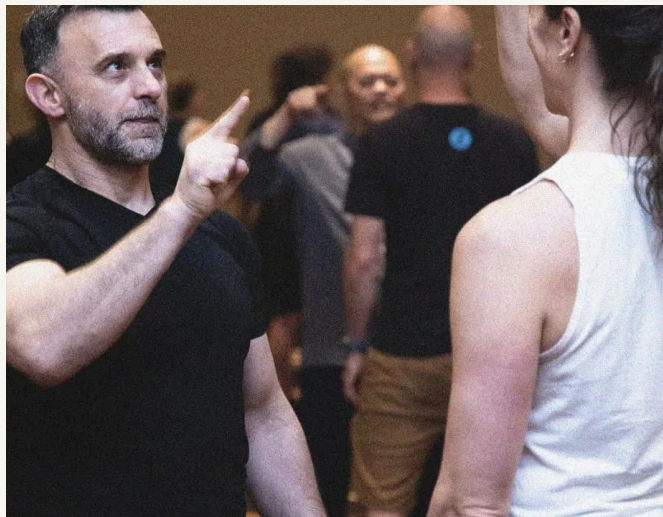
写真：Carrick Institute公式サイト。図は説明用に単純化。前庭＝頭の動きや傾きを感じる仕組み。DC＝カイロプラクティックの学位、PhD＝研究の博士号。

03 学ぶと、見方がどう変わるか

「動き」の奥にある働きを見る。

同じ動作から、
考えられることが
増えていく。

筋肉や関節への知識に、
感覚と神経の視点を加える。



Z-Health公式サイト掲載のトレーニング風景

01 片脚で立つ

目、頭の傾き、足裏や関節の感覚は、バランスにどう関わっているだろう。

02 動くボールを追う

目で追う、頭を動かす、体の位置を調整する。その連携を見てみよう。

03 文字を目で追い、書く

視線、姿勢、手の操作。必要な働きを分けると、観察するポイントが増える。

OBSERVE

見る

SELECT

選ぶ

RETEST

確かめる

理由を考え、反応を見て、調整する。
その積み重ねが、一人ひとりを丁寧にみる力になります。

学習用の着眼点です。原因は多様で、これらの観察だけで診断するものではありません。[1, 3, 7]

04 世界の実践者 01

Dr. Robert Melillo

ロバート・メリロ

米国 | Melillo Method

子どもの発達を、
感覚・運動との
つながりで考える。

子どもの発達・学習・行動に関する臨床と教育に取り組む実践者。カイロプラクティックの博士号を持ち、Melillo Methodと著書『Disconnected Kids』を通じて発信しています。[4]



注目するところ

原始反射、感覚や運動の発達、左右の脳の連携などを評価。運動・バランス・感覚への働きかけと、認知・学習課題を組み合わせると説明しています。[5]

専門家の学びが国を越える

専門家向け教育を展開。公式実践者リストには、米国、日本、ドイツ、オーストラリアなどの掲載があります。[4, 6]

「左右の脳のアンバランス」は、Melillo氏が提唱するモデルです。

この実践から学びたい視点

行動や学習だけでなく、
その人が「どう感じ、どう体を使うか」にも目を向ける。

写真・人物紹介：Robert Melillo公式サイト。

05 世界の実践者 02

Dr. Eric Cobb

エリック・コブ

米国 | Z-Health創設者

神経科学を、
日々の
トレーニングへ。

神経科学を運動指導に応用する教育体系「Z-Health」を展開。トレーナー、コーチ、医療専門職、アスリートなどに向けた教育を行っています。[7]



Z-Healthが扱う四つのテーマ

01 動きの再学習

動かし方や可動性を見直す。

02 感覚の統合

視覚・前庭・体の位置感覚を考える。

03 スポーツとスキル

見る力や、競技の運動技能を考える。

04 痛み・ストレス

痛みや緊張を神経系の視点から学ぶ。

公式カリキュラムのCore Certificationsを要約。[8]

この実践から学びたい視点

体の動かし方を教えるとき、
その動きを支える感覚の働きにも目を向ける。

写真：Z-Health公式サイト。

06 世界の実践者 03

Lars Lienhard

ラース・リーンハルト

ドイツ | Neuro Athletic Training

トップスポーツにも、
神経から考える
トレーニングを。

ドイツのスポーツ科学者・トレーナー。Eric Cobb氏の仕事を基盤にしたアプローチを、Neuroathletik／Neuro Athletic Training（NAT）として競技の現場で発展させてきました。[9]



競技の現場での活用

2014年のサッカーW杯ではドイツ代表のサポートチームに参加。短距離選手Gina Lückenkemperとの取り組みも、ドイツ陸上競技連盟が紹介しています。[10]

選手が語る価値

Lückenkemper選手は、動作の細部に取り組む新しい方法として、日々の練習に取り入れていると述べています。本人の経験として紹介された内容です。[10]

NAT Instituteの教育では、筋力・可動性、スピード、持久力を扱います。[11]

この実践から学びたい視点

競技に必要な「見る・感じる・動く」を考え、
選手ごとの課題とトレーニングを結びつける。

写真：Lars Lienhard公式サイト。

07 国境を越える学び

臨床・発達・運動・競技へ。

神経から身体を考える視点が、国や専門分野を越えて共有されています。

INTERNATIONAL CONNECTIONS

北米 ●————● 欧州 ●————● 日本・豪州など

下記の教育・実践者掲載にみられる地域の例。各体系の活動をまとめた概念図です。

01 Carrick Institute

臨床・リハビリの教育

沿革では1991年に、北米・欧州・環太平洋へ対面教育を拡大。神経機能を学ぶ教育が海外へ広がっています。
[2]

02 Melillo Method

発達・学習の支援

公式リストに日本・ドイツ・オーストラリアなどの実践者を掲載。米国外にも学びと実践のつながりがあります。 [6]

03 Z-Health

運動指導・スポーツ技能

神経科学を、トレーナー、コーチ、医療専門職などが学ぶための教育体系として展開しています。 [7, 8]

04 NAT / Lienhard

競技・トレーナー教育

NAT Instituteはドイツやオーストリアでのコース、英語のワークショップも案内しています。 [11]

学ぶ価値のある、国際的な実践の広がり。

紹介した各体系には、それぞれ独自の理論と方法があります。

学ぶ価値は、 目の前の人にある。

人を理解する視点を増やし、
その人の可能性を、一緒に探せること。

01 観察する目を育てる

動き、視線、姿勢、反応を丁寧に見る。

02 選択肢を増やす

これまでの専門知識に、感覚と神経の視点を加える。

03 変化を確かめる

同じ条件で測り直し、本人に役立つ変化を確かめる。

実践の可能性を、研究でも確かめる

Carrick氏らの2017年の研究では、脳震盪後の症状が6か月超続く70人で、5日間の介入前後に症状スコアの低下が報告されました。[12]

研究は、まだ途上です。だからこそ、目の前の人で測り、変化を確かめる。研究と現場の両方で、検証を重ねます。

「この人には、ほかにどんな関わり方ができるだろう」。

実践では自分の専門資格・役割に応じて活用し、必要な医療や他職種の支援につなげます。

09 出典・補足

さらに知りたい方へ。

題名をクリックすると原資料が開きます。確認日：2026年10月6日

01 Carrick Institute. For Patients.

機能神経学の定義、感覚・運動への働きかけ、評価と再評価。

02 Carrick Institute. Story & History.

Ted Carrickの紹介、教育機関の創設と海外展開の沿革。

03 Carrick Institute. Functional Neurology Essentials Program.

神経可塑性、感覚統合、評価・介入・再評価などの教育内容。

04 Robert Melillo. About Dr. Melillo.

学位、Melillo Method、著書、発達・学習領域の臨床と教育。

05 The Melillo Center for Developing Minds. Patient Brochure.

Melillo氏自身が説明するモデル、評価項目、介入の組み合わせ。

06 Robert Melillo. Referral Directory.

国別の実践者掲載情報。人数や掲載資格の有効性は独立検証していない。

07 Z-Health. About Us.

Eric Cobbの創設者としての活動と、教育対象・方法論。

08 Z-Health. Curriculum.

運動、感覚統合、スポーツ技能、痛み・ストレスに関する教育内容。

公式サイトは、人物の活動や教育内容を確認するために参照しています。出典番号は本文中の〔番号〕に対応します。

10 出典・写真クレジット

学びを、確かな情報につなげる。

09 Lars Lienhard. Official Profile.

スポーツ科学者としての経歴、Cobbとの関係、NATへの発展。

10 Deutscher Leichtathletik-Verband. Gina Lückenkemper and Neuroathletik. 2020.

ドイツ陸上競技連盟の2020年6月3日記事。2014年W杯帯同と選手の経験。

11 Neuro Athletic Training Institute. Courses & Workshops.

Lars Lienhardの教育活動、カリキュラム、ドイツ・オーストリア等の開催案内。

12 Carrick FR et al. Head-Eye Vestibular Motion Therapy Affects the Mental and Physical Health of Severe Chronic Postconcussion Patients. 2017.

Frontiers in Neurology 8:414。70人を対象とする、対照群のない後ろ向き研究。

写真について

Ted Carrick / Carrick Institute

Robert Melillo / Robert Melillo公式サイト

Eric Cobb・トレーニング風景 / Z-Health

Lars Lienhard / Lars Lienhard公式サイト

写真は各公式ページの掲載画像を使用しています。トレーニング風景はCobb氏本人の写真として紹介するものではありません。

本資料の位置づけ

講座の導入として、機能神経学を学ぶ魅力と関連アプローチの応用例を紹介しました。「学びたい視点」は本資料による整理で、人物からの直接の引用ではありません。

各体系はそれぞれ独自のもので、全員をCarrick氏の直系として扱ってはいません。Dr.は医師資格を示す呼称ではなく、Lienhard氏はスポーツ科学者・トレーナーとして紹介しています。発達特性の原因や介入の効果を一つのモデルで断定するものではなく、大会成績や症状の変化が特定の手法だけによる成果だとも考えていません。国際的な広がりや、標準医療としての承認を意味するものではありません。

11 日本で学ぶなら

この視点を、日本の現場へ。

本資料で紹介した考え方を、治療家・トレーナー・保護者が現場で使える形にしたのが、ファンクショナルブレインメソッドです。

FUNCTIONAL BRAIN METHOD

「脳から体を見る」視点を、現場で使える形に。

ファンクショナルブレインメソッド（FBM）は、機能神経学や発達理論の考え方を参考に、整体・トレーニング・子どもの発達支援の現場で実践できる形に整理した独自の体系です。開発・運営はJUMPOUT株式会社（2018年設立、東京・虎ノ門）。



堤 由輔 つつみ ゆうすけ | ファンクショナルブレインメソッド開発者／JUMPOUT株式会社 代表

オリンピックや世界選手権で活躍するトップアスリートのサポートを長年続けるなかで、パフォーマンスと健康の鍵は、筋肉そのものより「脳」にあると気づく。整体師として20年の現場経験と、国内外で学んだ神経科学・発達理論をひとつに束ね、ファンクショナルブレインメソッドを確立。

学びの入口

01 無料で学ぶ

LINE「JUMP OUT講座」で、脳と体の話と30秒ワークを週1回お届けしています。

02 体系的に学ぶ

マスタートレーナー認定講座。全11回・月1回、虎ノ門。受けられない回はアーカイブ動画で。

03 現場で実践する

公式認定店。3日間の初期研修と、全国の症例ネットワーク（FBM Research Lab）に参加できます。



LINE公式アカウント「JUMP OUT講座」

@598isnzb

まずはLINEで。講座や認定店のご相談も、こちらから。

functional-brain-method.jp

認定講座 /master/ 認定店 /partner/

ファンクショナルブレインメソッドは、本資料で紹介した神経科学・発達理論の考え方を参考に構成された独自のアプローチです。特定の疾患の治療や効果を保証するものではありません。